キャラクター名
レオン・イペタム

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー ブラム＝ストーカー	ワークス	レネゲイドビーイングD	カヴァー	JK
オプショナル		年齢	17歳(※御影+1歳)	性別	男
覚醒	無知	衝動	恐怖	初期侵食率	37 %
出自	最後の希望	経験	露見	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	4	0	0			4
精神	2	0	0			2
社会	0	1	0			1

HP	26
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ	1		交渉	1	
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
血剣イペタム(100↓)	白兵	2r+4	5	37		16点HP消費
血剣イペタム(100↑)	白兵	2r+4	5	42		18点HP消費
血呪斬(100↓)	白兵	6r+4	5	37		さらに2点HP消費
血呪斬(100↑)	白兵	7r+4	5	42		さらに2点HP消費

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
楠森御影の妄想ノート	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
楠森御影	P 庇護	N 恐怖		
御影の思い描く本当の"レオン"	P 誠意	N 嫉妬		
都築京香	P 信頼	N 不快感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P：	0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
赫き剣	7	3	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：[Lv*2]点までのPを消費し武器作成								
破壊の血	5	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	ﾘﾐｯﾄ	
効果：《赫き剣》の武器を強化。2点HP消費								
スーパーランナー	1	1	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：戦闘移動。移動距離+[Lv*5]m。1回/ｼｰﾝ								
コンセ：ブラム	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	-	
効果：C値-Lv								
鮮血の一撃	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	至近	単体	<白兵>	-	
効果：判+[Lv+1]D。2点HP消費								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果：衝動判定+LvD。								
オリジン:レジェンド	1	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	RB	
効果：シーン中、【精神】の達+[Lv*2]								
瀉血	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：血液循環を良くして美容と健康に								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「御影には指一本触れさせねぇ。覚悟しろ」

■概要
楠森御影（中学生）が夢想した『自分にとっての理想の王子様』の妄想の概念にレネゲイドが宿った空想上の存在がレオン。
※夢女子の妄想の塊。王子様×私（＝御影）の王子様
御影の妄想通りに見影を一番に考え愛し大事にしており、御影の妄想上の設定が全て正しいと信じていると同時に、自身がその『架空』から創造された存在であることにも気付いている。
が、創造主である御影には感謝しているし、彼女の夢を守りたいと思っている。と同時に、彼女がこの夢から醒め、いつか訪れる『本当の王子様』と出会う時に対しては、言い難い恐怖心を覚えつつも、彼女を祝福しようとしている。
だが、自身がレネビとして生まれた瞬間から、彼女の思い描く理想の王子様からかけ離れているのではないかとも思っている。
なお、御影のことを愚直に尊重するあまり、彼女の設定については聞かれたらペラペラ喋る。歩く黒歴史公開機。

■御影ちゃんの黒歴史
私はどこにでもいるようなごく普通の女の子……のように見えるけれど、実は別の世界の亡国の御姫様。ラヴィリヌス王国。
私の国は、魔族の侵攻により滅ぼされた。彼は、私を魔族の侵攻を防ぎ、私をこの世界へ逃がすだけの時間を作ってくれた。
別れの時、彼は約束してくれた。『必ずお前を迎えに行く。待っていてくれ』って。私は彼が生きているって信じてる。
私がこの世界に転移した場所である大樹で、私は毎日、彼がこの場所へ帰ってこれるようお祈りを捧げている。
彼が契約した血剣の呪いは、聖女の涙によって浄化することが出来るけれど、逆に言うとそれでしか浄化できない。
それと、昔あの国の書庫で読んだ魔術書によると、もし世界と世界が繋がるという歪みが２度起こってしまうと、世界に穴が開いてしまうことがあるらしい。魔族の侵攻が起こるか、この世界が壊れるか……何が起こるか分からない。
だから私は、彼と再会をした後、彼の呪いを浄化して、この世界を救うという三つの壁を突破しなくちゃいけない。
けれど、大丈夫。私は信じてる。私と彼の二人なら、出来ないことなんて無いって。